

平成23年度採択プログラム 事後評価調書

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	大阪大学	整理番号	A02
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) にしお しょうじろう 氏名・職名 西尾 章治郎(大阪大学・学長) (平成27年8月26日変更)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) こばやし ただし 氏名・職名 小林 傳司(大阪大学・理事・副学長(教育担当)) (平成27年8月26日変更)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) ふじた きくお 氏名・職名 藤田 喜久雄・教授(大阪大学・大学院工学研究科・機械工学専攻教授)		
4. 類型	A <オールラウンド型>		
5.	プログラム名称	超域イノベーション博士課程プログラム	
	英語名称	Cross-Boundary Innovation Program	
	副題		
6. 授与する博士 学位分野・名称	専攻分野：文学、人間科学、法学、経済学、応用経済学、経営学、理学、医学、 看護学、保健学、歯学、薬学、臨床薬学、工学、言語文化学、 日本語・日本文化、国際公共政策、情報科学、生命機能学、学術 付記する名称：超域イノベーション博士課程プログラム		
7. 主要分科	(①) (②) (③) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入 総合系全分野全分科、人文社会系全分野全分科、理工系全分野全分科、生物系全分野全分科		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	文学研究科文化形態論専攻、同文化表現論専攻、人間科学研究科全専攻、 法学研究科法学・政治学専攻、経済学研究科全専攻、理学研究科全専攻、 医学系研究科医学専攻、同保健学専攻、歯学研究科全専攻、 薬学研究科全専攻、工学研究科全専攻、基礎工学研究科全専攻、言語文化研究科全専攻、 国際公共政策研究科全専攻、情報科学研究科全専攻、生命機能研究科生命機能専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	パナソニック株式会社、ダイキン工業株式会社、三菱電機株式会社、株式会社ベネッセコーポレーション 株式会社キャンサーズキャン、株式会社健康都市デザイン研究所、一般社団法人アスリートネットワーク、 独立行政法人国際協力機構		

14. プログラム担当者の構成		計	79	名			
外国人の人数	3	人	[3.8 %]	女性の人数	11	人	[13.9 %]
プログラム実施大学に属する者の割合		[87.3	%]			
プログラム実施大学に属する者	69	人	プログラム実施大学以外に属する者	10	人		
そのうち、他大学等を経験したことのある者	53	人	そのうち、大学等以外に属する者	9	人		

15. プログラム担当者

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成29年度における役割)
(プログラム責任者) 小林 傳司 (平成27年8月26日プログラム担当者からプログラム責任者へ変更)	コバヤシ タツシ		理事・副学長 (教育担当)	科学哲学、科学技術社会論・理学修士	プログラムの責任者、総合計画会議議長
(プログラムコーディネーター) 藤田 喜久雄	フジタ キコ		工学研究科・機械工学専攻・教授 未来戦略機構・第一部門長	設計工学・工学博士	プログラムの統括、総合計画会議副議長
檜垣 立哉	ヒガキ タツヤ		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	哲学、現代思想・博士(文学)	プログラムの企画と改善、学生の履修支援と育成、総合計画会議構成員、教務WG主査
三成 賢次	ミツナリ ケンジ		理事・副学長 (総合計画、評価、広報担当)	西洋法史、ドイツ法・博士(法学)	プログラムの企画と運営、総合計画会議構成員
佐藤 宏介	サトウ コウスケ		基礎工学研究科・システム創成専攻・教授 学際融合教育研究センター・センター長	計測工学・工学博士	プログラムの企画と運営、総合計画会議構成員、履修生支援WG
竹村 治雄	タケムラ ハルオ		サイバーメディアセンター・教授	ヒューマンインタフェース・博士(工学)	プログラムの企画と改善、教務WG
正城 敏博	マサキ トシヒロ		産学共創本部・教授	産学連携、知的財産・博士(工学)	プログラムの企画と改善、選抜審査評価WG
大竹 文雄	オオtake フミオ		社会経済研究所・教授	労働経済学、行動経済学・博士(経済)	プログラムの企画と改善、総務WG
平田 オリザ	ヒラタ オリザ		00デザインセンター・特任教授	演劇	プログラムの開発と改善、選抜審査評価WG
米山 雅武 (平成28年4月1日追加)	ヨネヤマ マサム		パナソニック株式会社 採用センター・採用課・課長	グローバル人材育成・学士(法学)	プログラムの開発支援と点検
中尾 類 (平成28年7月1日追加)	ナカオ ルイ		パナソニック株式会社 本社CTO室技術人材戦略部(兼)先端研究本部人事・総務部・部長	グローバル人材育成	プログラムの開発支援と点検
伊藤 宏幸	イトウ ヒロキ		ダイキン工業株式会社テクノロジー・イノベーションセンターリサーチコーディネーター	共同研究開発、技術経営企画	プログラムの開発支援と点検
日山 敦司 (平成28年7月1日追加)	ヒヤマ アツシ		株式会社ベネッセコーポレーション・大阪支社・支社長	教育事業	プログラムの開発支援と点検
福吉 潤	フクヨシ ジュン		株式会社キャンサースキャン 代表取締役	ソーシャルマーケティング、アントレプレナーシップ・MBA	プログラムの開発支援と点検
井垣 貴子	イガキ タカコ		株式会社健康都市デザイン研究所 代表取締役	都市政策、環境デザイン、医療福祉計画・修士(都市政策学)	プログラムの開発支援と点検
岡本 依子	オカモト ヨリコ		一般社団法人アスリートネットワーク 会員	テコンドー指導・学士(人間科学)	プログラムの開発支援と点検
宍戸 健一 (平成29年4月1日追加)	シシド ケンイチ		独立行政法人国際協力機構 関西国際センター・所長	国際交流事業	プログラムの開発支援と点検
菅 健一 (平成28年4月1日追加)	スガ ケンイチ		三菱電機株式会社 先端技術総合研究所・開発戦略部・企画グループ	研究企画(共同研究・国家プロジェクト・海外連携)・博士(理学)	プログラムの開発支援と点検

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成29年度における役割)
山崎 吾郎 (平成24年11月1日追加)	ヤマザキ ゴロウ		00デザインセンター・准教授	人間科学・博士 (人間科学)	プログラムの開発と改善・運営業務、総合計画会議構成員
宮原 暁	ミヤハラ キョウ		グローバルイニシアティブ・センター・教授	社会人類学・博士 (社会人類学)	プログラムの開発と改善、教務WG
上田 晶子	ウエダ アキコ		名古屋大学大学院国際開発研究科・准教授	開発学・博士(開発学)	プログラムの開発と改善
大谷 晋也	オオタニ シンヤ		国際教育交流センター・准教授	日本語教育学、言語社会学・修士 (言語文化学)	プログラムの開発と改善、教務WG
平井 啓	ヒライ ケイ		経営企画オフィス・准教授	行動医学・博士 (人間科学)	プログラムの企画と運営、選抜審査評価WG
松行 輝昌	マツユキ テルマサ		産学共創本部・招へい准教授	アントレプレナーシップ・M.A.	プログラムの開発と改善
安部 有紀子	アベ ユキコ		全学教育推進機構・准教授	教育社会学・博士 (教育学)	プログラムの開発と改善、選抜WG
堤 研二	ツミ ケンジ		文学研究科・文化形態論専攻・教授	人文地理学・博士 (文学)	プログラムの企画と改善、学生の履修支援と育成、総合計画会議構成員、選抜審査評価WG主査
飯倉 洋一 (平成29年4月1日追加)	イイクラ ヨウイチ		文学研究科・文化表現論専攻・教授	日本近世文学・博士 (文学)	学生の履修支援と育成
西森 年寿 (平成27年10月16日追加)	ニシモリ トシタ		人間科学研究科・人間科学専攻・准教授	教育工学・博士 (人間科学)	プログラムの開発支援と点検、学生の履修支援と育成、教務WG
河森 正人	カモリ マサト		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	東アジアの高齢者福祉に関する比較研究・博士(創造都市)	学生の履修支援と育成
高橋 明男 (平成28年4月1日追加)	タカハシ アキオ		法学研究科・法学・政治学専攻・教授	法律学(行政法)・修士	プログラムの企画と改善、学生の履修支援と育成、選抜WG
浦井 憲	ウライ ケン		経済学研究科・経済学専攻・教授	理論経済学、数理経済学、経済思想・博士(経済学)	学生の履修支援と育成
廣田 誠	ヒロタ マコト		経済学研究科・経済学専攻・教授	近代日本経済史・博士(経済学)	プログラムの企画と改善、学生の履修支援と育成、自己点検・外部連携WG
ウィラワン ドニ・ダハナ (平成28年4月1日追加)	ウィラワン ドニ・ダハナ		経済学研究科・経営学系専攻・准教授	マーケティング・博士(経営学)	学生の履修支援と育成
大鹿 健一	オシカ ケンイチ		理学研究科・数学専攻・教授	位相幾何学・理学博士	学生の履修支援と育成
黒木 和彦	クロキ カズヒコ		理学研究科・物理学専攻・教授	物性物理学理論・博士(理学)	学生の履修支援と育成
小川 琢治	オガワ タクジ		理学研究科・化学専攻・教授	有機化学、ナノ化学・理学博士	プログラムの企画と改善、学生の履修支援と育成、教務WG
柿本 辰男	カキモト タツオ		理学研究科・生物科学専攻・教授	生物学・博士(理学)	学生の履修支援と育成
今田 勝巳	イマダ カツミ		理学研究科・高分子科学専攻・教授	生体高分子構造・博士(理学)	学生の履修支援と育成
中嶋 悟	ナカシマ サトル		理学研究科・宇宙地球科学専攻・教授	地球物理化学・理学博士	学生の履修支援と育成

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成29年度における役割)
中嶋 悟	ナカシマ ユウ		理学研究科・宇宙地球科学専攻・教授	地球物理化学・理学博士	学生の履修支援と育成
金井 好克 (平成28年4月1日追加)	カイ コウキ		医学系研究科・医学専攻・教授	薬理学、医学博士	学生の履修支援と育成
井上 智子	イノウエ トモコ		医学系研究科・保健学専攻・教授	看護管理学・博士(医学)	プログラムの企画と改善、学生の履修支援と育成、履修生支援WG
今里 聡	イマサト サトシ		歯学研究科・口腔科学専攻・教授	歯科材料学、生体材料学・博士(歯学)	プログラムの企画と改善、学生の履修支援と育成、教務WG
平田 收正	ヒラタ コウマサ		薬学研究科・創成薬学・教授	応用環境生物学・博士(薬学)	プログラムの企画と改善、学生の履修支援と育成、選抜審査評価WG
橋本 均	ハシモト ヒトシ		薬学研究科・医療薬学専攻・教授	分子神経薬理学・博士(薬学)	学生の履修支援と育成
菊地 和也	キクチ カズヤ		工学研究科・生命先端工学専攻・教授	ケミカルバイオロジー・博士(薬学)	学生の履修支援と育成
生越 専介	ナガシマ センスケ		工学研究科・応用化学専攻・教授	有機金属化学・博士(工学)	学生の履修支援と育成
民谷 栄一	タミヤエイイチ		工学研究科・精密科学・応用物理学専攻・教授	ナノバイオ工学、バイオセンサー・工学博士	学生の履修支援と育成
中谷 彰宏	ナカタニ アキヒロ		工学研究科・知能・機能創成工学専攻・教授	機械工学、変形体の力学・博士(工学)	学生の履修支援と育成
金子 真	カネコ マコト		工学研究科・機械工学専攻・教授	ハイパーヒューマン工学・工学博士	学生の履修支援と育成
田中 敏宏	タナカ トシヒロ		工学研究科・マテリアル生産科学専攻・教授	材料熱力学、界面制御工学、材料物理化学、資源循環工学、工学博士	プログラムの企画と改善、学生の履修支援と育成
尾崎 雅則	オザキ マサノリ		工学研究科・電気電子情報工学専攻・教授	電子工学・工学博士	学生の履修支援と育成
黒崎 健	クサキ ケン		工学研究科・環境・エネルギー工学専攻・准教授	原子力工学、環境エネルギー材料工学・博士(工学)	学生の履修支援と育成、教務WG、履修生支援WG
木多 道宏 (平成28年4月1日追加)	キタ ミチヒロ		工学研究科・地球総合工学・教授	建築計画、都市デザイン・博士(工学)	学生の履修支援と育成、総合計画会議構成員、履修生支援WG
加賀 有津子	カガ アツコ		工学研究科・ビジネスエンジニアリング専攻・教授	建築・都市計画・空間情報学・博士(工学)	学生の履修支援と育成
田谷 正仁	タヤ マサヒト		基礎工学研究科・物質創成専攻・教授	生物化学工学・農学博士	学生の履修支援と育成
小林 秀敏 (平成29年4月1日追加)	コバヤシ ヒデトシ		基礎工学研究科・機能創成専攻・教授	構造強度学・PhD(英国 Reading 大学 1987)	学生の履修支援と育成
上田 功	ウエダ イサオ		言語文化研究科・言語文化専攻・教授	言語学・文学修士	プログラムの企画と改善、学生の履修支援と育成、教務WG
杉田 米行	スギタ ヨネユキ		言語文化研究科・言語社会専攻・教授	日米関係、日本医療保険制度史、アメリカ外交・Ph.D.(U.S. History)	学生の履修支援と育成
村上 正直 (平成28年9月1日追加)	ムラカミ マサナオ		国際公共政策研究科・国際公共政策専攻・教授	国際法・博士(国際公共政策)	学生の履修支援と育成

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成29年度における役割)
松繁 寿和	マツグ ヒサカズ		国際公共政策研究科・比較公共政策専攻・教授	労働経済学、人事経済学、教育経済学、キャリアデザイン・博士(経済学)	プログラムの企画と改善、学生の履修支援と育成、総合計画会議構成員
日比 孝之	ヒビ タカキ		情報科学研究科・情報基礎数学専攻・教授	組合せ論・理学博士	学生の履修支援と育成
森田 浩	モリタ ヒロシ		情報科学研究科・情報数理学専攻・教授	オペレーションズ・リサーチ・博士(工学)	学生の履修支援と育成
楠本 真二 (平成29年4月1日追加)	クスモト シンジ		情報科学研究科・コンピュータサイエンス専攻・教授	ソフトウェア工学・博士(工学)	学生の履修支援と育成
土屋 達弘 (平成28年4月1日追加)	ツチヤ タツヒロ		情報科学研究科・情報システム工学専攻・教授	高信頼システム・博士(工学)	学生の履修支援と育成
東野 輝夫	ヒガシノ テルオ		情報科学研究科・情報ネットワーク学専攻・教授	情報工学・工学博士	学生の履修支援と育成
鬼塚 真	オニヅカ マコト		情報科学研究科・マルチメディア工学専攻・教授	データベース、ビッグデータ分析・博士(工学)	学生の履修支援と育成
松田 秀雄	マツダ ヒデオ		情報科学研究科・バイオ情報工学専攻・教授	バイオインフォマティクス・学術博士	プログラムの企画と改善、学生の履修支援と育成、総合計画会議構成員、履修生支援WG主査
山本 亘彦	ヤマモト ノブヒコ		生命機能研究科・生命機能専攻・教授	神経科学・工学博士	プログラムの企画と改善、学生の履修支援と育成、履修生支援WG
Brenes Ivan Martin (平成25年4月1日追加)	ブレネス イヴァン マーティン		未来戦略機構第一部門・特任教授(常勤)	公共・国際関係学 M.A.	プログラムのコースワークなどの企画・開発・運営業務
大杉 卓三 (平成26年4月1日追加)	オオスキ タクゾウ		未来戦略機構第一部門・特任准教授(常勤)	比較社会文化・博士(比較社会文化)	プログラムのコースワークなどの企画・開発・運営業務
三田 貴 (平成24年4月1日追加)	ミタ タカシ		未来戦略機構第一部門・特任准教授(常勤)	政治学・Ph.D Political Science	プログラムのコースワークなどの企画・開発・運営業務、総合計画会議構成員
Ghosh Dastidar Debasrita (平成24年10月1日追加)	ゴ-シュ ダスティ タ-デバシタ		未来戦略機構第一部門・特任講師(常勤)	文学・博士(文学)	言語教育をはじめとするプログラムのコースワークなどの企画・開発・運営業務
金森 サヤ子 (平成29年4月1日追加)	カネモリ サヤコ		未来戦略機構第一部門・特任講師(常勤)	保健学・公衆衛生学・博士(保健学)	プログラムのコースワークなどの企画・開発・運営業務
大谷 洋介 (平成27年3月16日追加)	オオタニ ヨウスケ		未来戦略機構第一部門・特任助教(常勤)	生態学・博士(理学)	プログラムのコースワークなどの企画・開発・運営業務
淵上 ゆかり (平成28年4月1日追加)	フチカミ ユカリ		未来戦略機構第一部門・特任助教(常勤)	地域研究・林学・博士(地域研究)	プログラムのコースワークなどの企画・開発・運営業務
小倉 拓也 (平成28年6月1日追加)	オクラ タクヤ		未来戦略機構第一部門・特任助教(常勤)	フランス哲学・博士(人間科学)	プログラムのコースワークなどの企画・開発・運営業務
佐藤 紗良 (平成29年4月1日追加)	サウ サラ		未来戦略機構第一部門・特任助教(常勤)	美学・博士(文学)	プログラムのコースワークなどの企画・開発・運営業務
平田 好則 (平成28年4月1日追加)	ヒラタ コノリ		未来戦略機構第一部門・特任教授	加工物理学・工学博士	プログラムのコースワークなどの企画・開発・運営業務
友枝 敏雄 (平成29年4月1日追加)	トモエダ トシオ		未来戦略機構第一部門・特任教授	社会学・社会学修士	総合計画会議構成員、総務WG主査

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数

本プログラムの過去のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成29年度は提出日現在))

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度 *(今後の募集予定: 有(無))	
プログラム募集定員数 (実数)	-	20	20	20	20	20	20	
① 応募 学生 数	-	106	30	32	28	16	25	
	うち留学生数	-	19	3	5	4	10	
	うち自大学出身者数	- (-)	66 (7)	18 (1)	20 (-)	12 (-)	9 (-)	14 (2)
	うち他大学出身者数	- (-)	40 (12)	12 (2)	12 (5)	16 (4)	7 (-)	11 (8)
	うち社会人学生数	- (-)	8 (1)	4 (-)	3 (1)	5 (2)	2 (-)	3 (1)
	うち女性数	- (-)	29 (19)	9 (3)	14 (5)	7 (-)	5 (-)	17 (9)
② 合格 者数	-	20	14	20	15	14	17	
	うち留学生数	-	3	1	2	-	5	
	うち自大学出身者数	- (-)	13 (2)	11 (1)	17 (-)	11 (-)	9 (-)	10 (1)
	うち他大学出身者数	- (-)	7 (1)	3 (-)	3 (2)	4 (-)	5 (-)	7 (4)
	うち社会人学生数	- (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	2 (-)
	うち女性数	- (-)	9 (1)	4 (1)	10 (2)	3 (-)	3 (-)	13 (5)
③ ②の うち 履修 生数	-	20	14	19	14	13	15	
	うち留学生数	-	3	1	2	-	5	
	うち自大学出身者数	- (-)	13 (2)	11 (1)	16 (-)	10 (-)	8 (-)	9 (1)
	うち他大学出身者数	- (-)	7 (1)	3 (-)	3 (2)	4 (-)	5 (-)	6 (4)
	うち社会人学生数	- (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	2 (-)
	うち女性数	- (-)	9 (1)	4 (1)	9 (2)	3 (-)	3 (-)	12 (5)
プログラム合格倍率 (応募学生数/合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	-	5.30倍	2.14倍	1.60倍	1.87倍	1.14倍	1.47倍	
充足率 (合格者数/募集定員)	-	100%	70%	100%	75%	70%	85%	

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を記入してください。

※平成29年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成29年度内に履修を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。

また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記入してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. プログラムの履修生数・修了(予定)者数

①区分制及び一貫制博士課程

プログラムの履修生数等	平成23年度						平成24年度						平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度						平成29年度																							
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計																		
平成23年度 選抜	うち留学生数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0														
	うち自大学出身者数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0														
	うち他大学出身者数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0														
	うち社会人学生数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0														
	うち女性数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0														
平成24年度 選抜	うち留学生数	/	/	/	/	/	20	-	-	-	20	18	-	-	-	18	17	-	-	-	17	13	-	-	-	13	11	-	-	-	11	11	-	-	-	11	4	-	-	-	4	4	-	-	-	4														
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	3	-	-	-	3	2	-	-	-	2	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0														
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	13	-	-	-	13	11	-	-	-	11	11	-	-	-	11	11	-	-	-	11	9	-	-	-	9	9	-	-	-	9	3	-	-	-	3	3	-	-	-	3														
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	7	-	-	-	7	7	-	-	-	7	6	-	-	-	6	2	-	-	-	2	2	-	-	-	2	2	-	-	-	2	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1														
	うち女性数	/	/	/	/	/	2	-	-	-	2	2	-	-	-	2	2	-	-	-	2	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1														
平成25年度 選抜	うち留学生数	/	/	/	/	/	9	-	-	-	9	9	-	-	-	9	12	-	-	-	12	11	-	-	-	11	8	-	-	-	8	8	-	-	-	8	3	-	-	-	3	3	-	-	-	3														
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0														
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	3	-	-	-	3	3	-	-	-	3	9	-	-	-	9	9	-	-	-	9	7	-	-	-	7	7	-	-	-	7	7	-	-	-	7	7	-	-	-	7														
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0														
	うち女性数	/	/	/	/	/	4	-	-	-	4	4	-	-	-	4	4	-	-	-	4	4	-	-	-	4	4	-	-	-	4	3	-	-	-	3	3	-	-	-	3	3	-	-	-	3														
平成26年度 選抜	うち留学生数	/	/	/	/	/	19	-	-	-	19	19	-	-	-	19	19	-	-	-	19	14	-	-	-	14	14	-	-	-	14	17	-	-	-	17	17	-	-	-	17	2	-	-	-	2														
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	2	-	-	-	2	2	-	-	-	2	2	-	-	-	2	2	-	-	-	2	2	-	-	-	2	2	-	-	-	2	2	-	-	-	2	2	-	-	-	2														
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	16	-	-	-	16	16	-	-	-	16	16	-	-	-	16	16	-	-	-	16	14	-	-	-	14	14	-	-	-	14	14	-	-	-	14	14	-	-	-	14														
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	3	-	-	-	3	3	-	-	-	3	3	-	-	-	3	3	-	-	-	3	3	-	-	-	3	3	-	-	-	3	3	-	-	-	3	3	-	-	-	3														
	うち女性数	/	/	/	/	/	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1														
平成27年度 選抜	うち留学生数	/	/	/	/	/	9	-	-	-	9	9	-	-	-	9	9	-	-	-	9	9	-	-	-	9	8	-	-	-	8	8	-	-	-	8	8	-	-	-	8	8	-	-	-	8														
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0														
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	10	-	-	-	10	10	-	-	-	10	10	-	-	-	10	10	-	-	-	10	10	-	-	-	10	10	-	-	-	10	10	-	-	-	10	6	-	-	-	6														
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	4	-	-	-	4	4	-	-	-	4	4	-	-	-	4	4	-	-	-	4	4	-	-	-	4	4	-	-	-	4	4	-	-	-	4	4	-	-	-	4														
	うち女性数	/	/	/	/	/	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1														
平成28年度 選抜	うち留学生数	/	/	/	/	/	9	2	-	-	11	9	2	-	-	11	9	2	-	-	11	9	2	-	-	11	9	2	-	-	11	9	1	-	-	10	9	1	-	-	10	10	-	-	-	10														
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	0	0	-	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	-	0														
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	7	1	-	-	8	7	1	-	-	8	7	1	-	-	8	7	1	-	-	8	7	1	-	-	8	7	0	-	-	7	7	0	-	-	7	7	0	-	-	7														
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	2	1	-	-	3	2	1	-	-	3	2	1	-	-	3	2	1	-	-	3	2	1	-	-	3	2	1	-	-	3	2	1	-	-	3	2	1	-	-	3														
	うち女性数	/	/	/	/	/	1	0	-	-	1	1	0	-	-	1	1	0	-	-	1	1	0	-	-	1	1	0	-	-	1	1	0	-	-	1	1	0	-	-	1	1	0	-	-	1														
平成29年度 選抜	うち留学生数	/	/	/	/	/	2	0	-	-	2	2	0	-	-	2	2	0	-	-	2	2	0	-	-	2	2	0	-	-	2	2	0	-	-	2	2	0	-	-	2	2	0	-	-	2														
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	13	1	-	-	14	13	1	-	-	14	13	1	-	-	14	13	1	-	-	14	13	1	-	-	14	13	1	-	-	14	13	1	-	-	14	13	1	-	-	14														
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	5	0	-	-	5	5	0	-	-	5	5	0	-	-	5	5	0	-	-	5	5	0	-	-	5	5	0	-	-	5	5	0	-	-	5	5	0	-	-	5														
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	6	0	-	-	6	6	0	-	-	6	6	0	-	-	6	6	0	-	-	6	6	0	-	-	6	6	0	-	-	6	6	0	-	-	6	6	0	-	-	6														
	うち女性数	/	/	/	/	/	2	0	-	-	2	2	0	-	-	2	2	0	-	-	2	2	0	-	-	2	2	0	-	-	2	2	0	-	-	2	2	0	-	-	2	2	0	-	-	2														
計	0	0	0	0	0	20	0	0	0	20	12	18	0	0	30	19	12	17	0	48	14	19	11	13	57	9	16	17	8	61	13	11	10	17	63	7	-	-	-	7	45	-	-	-	45	18	-	-	-	18	6	-	-	-	6	29	-	-	-	29
修了者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	4															
就職者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	4															
プログラム履修生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	4	5	-	-	-	5	4	-	-	-	4	9	-	-	-	9	7	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-										

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数」と整合性を取ってください。
 ※「修了者数」の平成29年度については、修了予定者数を記入してください。満期退学者は修了者には含まないでください。
 ※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。
 ※辞退者(Q.Eによるものも含む)や満期退学者がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. プログラムの履修生数・修了(予定)者数

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

プログラムの履修生数等	平成23年度					平成24年度					平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度					平成29年度				
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計
平成23年度 選抜	うち留学生数	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0
	うち自大学出身者数	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0
	うち他大学出身者数	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0
	うち社会人学生数	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0
	うち女性数	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0
平成24年度 選抜	うち留学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち女性数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
平成25年度 選抜	うち留学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	2	-	-	-	2	-	2	-	-	2	-	-	1	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	0	
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	-	-	-	0	-	0	-	-	0	-	-	0	-	0	-	-	0	0	-	-	-	-	0	
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	2	-	-	-	2	-	2	-	-	2	-	-	1	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	0	
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	-	-	-	0	-	0	-	-	0	-	-	0	-	0	-	-	0	0	-	-	-	-	0	
	うち女性数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	0	-	0	-	-	0	0	-	-	-	-	0	
平成26年度 選抜	うち留学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち女性数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
平成27年度 選抜	うち留学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち女性数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
平成28年度 選抜	うち留学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち女性数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
平成29年度 選抜	うち留学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち女性数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
計	うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	2	0	0	2	0	0	1	0	1	2	0	0	1	3	1	2	0	0	3
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	うち女性数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
修了者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
就職者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
プログラム履修生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

※16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数」と整合性を取ってください。
 ※「修了者数」の平成29年度については、修了予定者数を記入してください。満期退学者は修了者には含まないでください。
 ※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。
 ※辞退者(Q.Eによるものも含む)や満期退学者がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】

超域イノベーション博士課程プログラム(以下では、「本プログラム」と称す)では、専門領域、国境、既成概念、相場観といった、様々な「境域」を超えて社会システムを変革へと導くイノベーションを牽引し社会のあらゆる方面でトップリーダーとして活躍する人材の輩出を目指している。すなわち、所属研究科での教育研究を通じて培われる専門力を基盤としつつ、社会での実践のための力量としての汎用力を研究科横断型・副専攻方式のコースワークにより修得させることにより、未知で複雑で困難な課題の解決を先導するための超域力を持つ博士人材の育成に取り組んでいる。

【特色】

本プログラムでは、超えるべき境域、すなわち解決すべき課題として、1) 専門領域を超える、2) 文字情報偏重を超える、3) 国境を超える、4) 旧来の思考パターンを超える、5) 科学技術決定論を超える、6) 私的利益を超える価値観・倫理観、7) 独善的エリート主義を超える、8) 組織を超える、の8つを位置付けている。そのもと、超域力を持つ博士人材に求められるアクションとして、(専門を) 究める、(学際領域へ) 越える、(新機軸を) 創る、(全体像を) 現す、(人々と) 交わる、(組織として) 連なる、(プロセスを) 導く、(イノベーションに) 挑むの8つを具体化した上で、教育すべき内容を究と越に関わる **Knowledge**、交と連と導に関わる **Skills**、創と現と挑に関わる **Integration** に大別することを基盤として明確化し、一貫した学位プログラムを整備している。コースワークの内訳は、**Integration** に直結する**コア科目群**、**Knowledge** に関わる**知識・教養系科目群**(人文系、社会科学系、理工系、生命科学系、トランスディシプリナリー系)、**Skills** に関わる**展開力系科目群**(トランスファラブルスキルズ、研究リテラシー)と実践的英語運用能力の育成と多言語の修得を図る**言語科目群**からなるラーニング科目群、課題発見から実践へと展開する各種活動であるアクティビティ科目群等から構成しており、全59科目(平成28年度)を新たな文理統合型教育として独自に開発・提供している。一連の科目は、研究室エクスプローラや海外でのフィールドスタディを通じた学ぶべき事項や解くべき課題の認識、要素としての知識やスキルの獲得、ワークショップやプロジェクトを通じたそれらの統合化、専門研究やインターンシップでの実践による強化からなる“学修のスパイラル”として組み立てており、一連の内容が紡がれて超域力として結実することを目指している。それらの中でも、統合化や強化に関わる部分では、中核科目として、履修生数名からなる文理混成チームが社会課題に挑み、課題発見・解決力を総合化する「超域イノベーション総合」を3年次に、現場に赴いて社会課題に挑み、課題解決力を実践し、磨き上げる「超域イノベーション実践」を4年次に配置している。

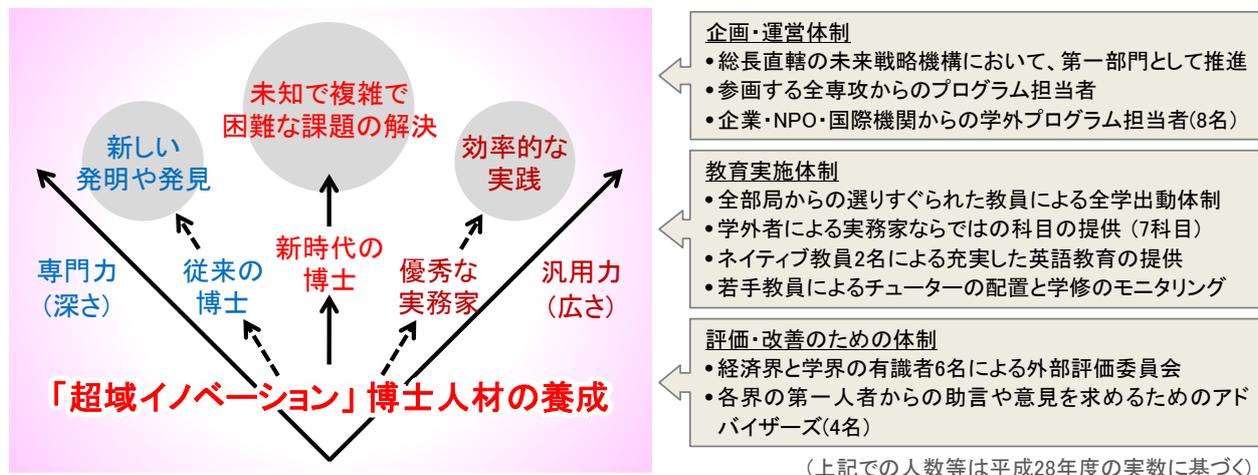
本プログラムには博士課程を有する全研究科への進学予定者が応募でき、知的体力を問う多段階方式により履修生を選抜しており、平成29年度の履修生65名は文理のバランスが取れた構成(人文・社会系:32名、理工系:22名、生命系:11名)になっている。さらに、5年一貫の博士課程に対して、コースワークの前期2年をBasicコース、後期3年をAdvancedコースとして、2年次末に、それまでのコースワークでの達成度と研究進捗状況に基づく進級審査を課し、BasicコースからAdvancedコースへの進級の可否を判定する。そして、3年次末のQualifying Examination(QE)において、超域イノベーションを牽引する博士候補生となり得るかを総合的に判定し、その後の発展的な学修と研究活動により、政財官民学界においてグローバルリーダーとなり得る博士人材を輩出しようとしている。

【優位性】

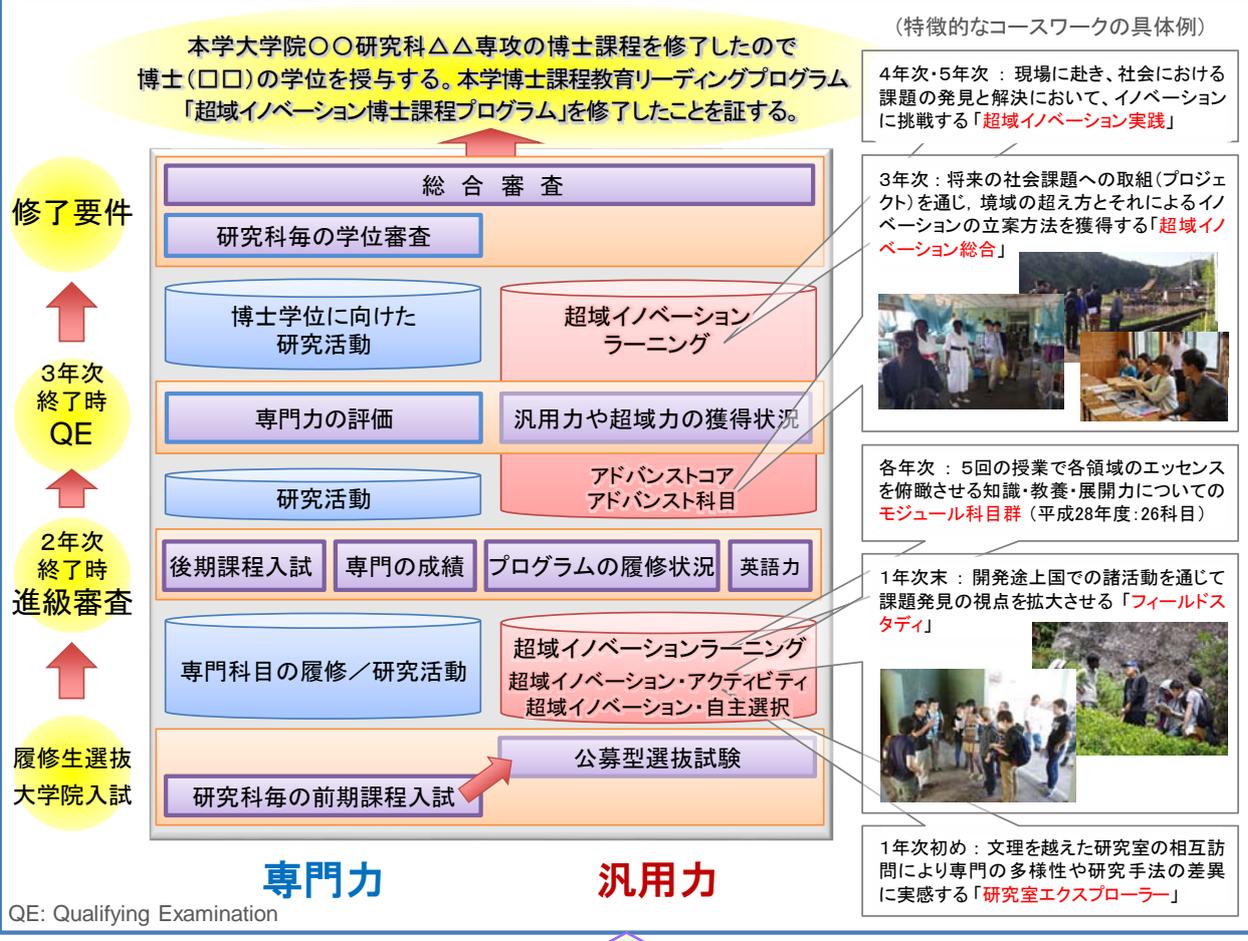
本プログラムでは、大阪大学における様々な大学院改革の実績を“社会でトップリーダーとして活躍する博士人材”を輩出するという一点に集約し先鋭的な取組を実施し、さらに、その持続的な発展、次世代の高等教育としての普遍的標準化という観点から本学の教育全般への展開を目指している。そのため、部局を超えて横断的な新たな学術のインキュベーションを目指す未来戦略機構の第一部門として、プログラム担当教員に限らず、幅広い教員が企画や運営等に参画して、全学体制により推進している。加えて、国内外の多様なセクターとの相互理解と協力関係を築き、コースワークでは、実践家ならでの多数の科目を組み込むなどして、博士課程教育のオープンイノベーションを目指している。

プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



大阪大学「超域イノベーション博士課程プログラム」



- 大阪大学における大学院教育の改革と実績
- 15件の21世紀COEプログラム
 - 12件のグローバルCOEプログラム
 - 25件の大学院GP(「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 13件、組織的な大学院教育改革推進プログラム12件)
 - 高度教養教育「知のジムナスティックス」(221科目)
 - 高度副プログラム (35プログラム)
 - 副専攻プログラム (3コース)
 - インダストリー・オン・キャンパス (共同研究講座制度など)
 - 大阪大学高度アジア人材育成プログラム
 - FrontierLab@OsakaU

プログラムの成果

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成するという観点に照らし、学生や修了者の活躍状況を含め、アピールできる成果について記入してください。)

【体系的なコースワークの整備】本プログラムでは、【特色】の項に記したように、大阪大学ならではのオールラウンド型教育として、Knowledge, Skills, Integration の三軸のもとで、科目開発を重ね、従来型の研究科で行われている各専門分野での高度な教育研究の厳密性と限定性を補完するかたちで、社会課題の全体像に対峙するための「曖昧さのもとでの科学性」とでも称すべき俯瞰力についての体系的な教育を構築してきた。そこでは、涵養すべき力を課題発見力・課題解決力・社会実践力の3つに大別した上で、各種の授業や活動を系統的に配置した独自のコースワークを提供するに至っている。それにより、専門力と汎用力の掛け算による超域力の醸成を具体化している。

【特徴的な授業や活動とそれらの実績】上記のコースワークでは、1年次から2年次にあつては、各方面での知識やスキルを修得させていき、トップリーダーに向けた基盤を形成した上で、3年次以降にそれらを統合していくことにより総合力を養おうとしており、3年次の「超域イノベーション総合」がその具体となっている。プロジェクト型の同科目では、H26 から H29 年度の4年で、企業から5、自治体から4、NPO から2、事業者から1、独立行政法人から1の延べ13件の多様な課題を取り上げてきている。課題提供者からは、いずれの場合も、履修生による提案が現状での延長線上にはない新たな切り口によるものであるとの評価を得ている一方、履修生は8ヵ月に及ぶ凝縮された経験を通じて俯瞰力の意味や意義を改めて理解するに至っている。その成果を具体的に移していく4年次以降での「超域イノベーション実践」では、H27 と H28 年度の延べ件数は16名で、いずれも履修生が自主開拓したものである。派遣先は国別では米国が3、英国が3、ドイツが2、スペイン、カナダ、シンガポール、ブルネイ、モロッコ、ウガンダが各1、国内が2となっている。例えば、国内の離島での環境問題を専門としている履修生がドイツの環境団体に出向いて世界中の先進事例をデータベース化するプロジェクトを立ち上げたり、バイオセンサーを専門とする履修生が、開発途上でセンサーのニーズを具体的に調査し、国内に戻ってセンサーのプロトタイプを製作したりするなど、オールラウンド型ならではの特徴的な取組が展開されており、履修生は現場での取組を通じて大きく成長している。

【汎用力の育成における効果】教育効果についても、H28 年度後半に独自のアンケートとインタビューによる検証を行ったが、汎用力に係る各種の項目の開発状況についての履修生の自己認識は高く、指導教員等も非履修生に比べて高く評価している。また、他者と協働する力には各種の学生参加授業が、専門以外の幅広い知識には多様な教員による授業や研究室エクスペローラが、国際性には重層的な海外派遣が効果を持っており、課題発見や課題解決等の項目にはフィールドプロジェクトと超域イノベーション総合などの社会での実践を伴う科目が効果を持っていることが確認できており、体系的なコースワークが狙い通りに機能していることが確認できている。その他、H27 年度の文部科学省 EDGE プログラムでの EDGE Innovation Challenge Competition 2015 において履修生が属するチームが金賞を得るなど、学会発表に限らず、ビジネスコンテスト等においても数多くの成果を得ている。

【就職、キャリアパスの実績】H24 年度に受け入れた初の履修生は H29 年3月に標準年限に達し、進級審査 (Pre-QE) や QE などの難関を通過してきた8名の者がコースワークを修了し、うち、5名が同時に学位を取得した。いずれもオールラウンド型ならではのキャリアパスを切り拓いており、例えば、医療機器メーカーに就職した2名のうち、1名は海外での新規事業展開を主導する役割を担う前提で採用され、もう1名は研究開発の方向性・戦略に携わるという前提で採用された。電機メーカーに就職した1名は、同社役員と履修生5名との面談の場で意見交換をしたことが採用に繋がっており、通常の採用プロトコルとは異なるルートによる。同名は、役員管轄のもとで経験を積み、ゆくゆくは経営に関わっていくことが期待されている。大学教員となった1名は、オールラウンド型として培った幅広い教養とスキルが評価され、新たに始まる低学年向けの教育を担うことになっている。

上記のようなキャリアパスの開発に向けては、履修生の意識や認識の改善や具体化のみならず、社会の側にオールラウンド型博士人材の意義や必要性についての理解を浸透させる取組を重ねてきた。節目でのシンポジウムのほか、H28 年度には企業等の経営陣や上位管理職などの方々と履修生が交流するイベントを新たに企画・実施してきたが、これが双方のイメージの転換に大きな効果があることが確認できており、今後も継続して、続く修了生の可能性を広げていくことを目指している。

プログラムの成果

(大学院改革につながる教育研究組織の再編等の学内外への波及効果や課題の発見について記入してください。)

【部局横断型教育の系譜と学内への浸透】大阪大学は、昭和初期に理系の帝国大学として設立され、戦後に文系の各学部を加えて総合大学となり、高度成長期に基礎工学や人間科学などの学際的な学部を先駆けて設置し、さらに大阪外国語大学と統合するなどの発展を重ねて学際的な教育研究を重視する我が国屈指の国立大学となっている。この発展の歴史が、博士課程教育リーディングプログラムにおいて、オールラウンド型の本プログラムのほか、複合領域での4つのプログラムの採択という結果を生んだ。また、産学連携での豊富な実績は、近年のオープンイノベーションの動向に呼応し、ロイター社がH27年に初めて公表したThe World's Most Innovative Universitiesで世界18位、日本で1位に位置付けられるなど、高い評価を得ている。本プログラムは、学際性豊かな本学の、博士後期課程を有する14すべての研究科が参画する横断型の学位プログラムとして全学体制で推進されてきており、当初より文理の学生比率もバランスが良く、H29年度には全研究科から履修生が出るに至っている。

【知の協奏と共創へ】社会の成熟や要素技術の飽和のもとでのイノベーションの創出には、大学が社会のコンテクストを真に理解し、共有することが求められるようになってきている。大阪大学では、大学が担うべき知の形態が、領域毎の専門知、従来型の産学連携を典型とするような、社会課題に向けて専門知を学際的に融合する統合知、さらに今後求められる社会の多様なステークホルダーと場と共有し、領域を超えた課題の設定からはじめて新次元の知を生み出そうとする共創知などによる重層性を示すようになってきているという認識のもと、第三期中期目標・中期計画(H28~33年度)においては知の協奏(Orchestration)と共創(Co-Creation)を推進することとしている。本プログラムで文理統合型学位プログラムとして開発してきた内容は、「境域を超えてイノベーションを先導する」という着想から生まれており、当初から共創知を志向するものであった。つまり、本プログラムは共創知の教育を先導的に具体化したものである。今後、本プログラムで開発した教育を学内の関連のあるさまざまな取組とも統合しながらさらに発展させ全学に展開していくために、共創知に向けた具体的教育を高度汎用力教育と名付け、H28年7月に特別経費によりCOデザインセンター(Center for the Study of Co* Design)を設立した。今後は同センターを一つの核として、本プログラムのさらなる発展としての文理統合型大学院プログラムの次なる展開のほか、学士課程から博士後期課程にわたる全教育課程での共創知に関わる取り組みを強化していく。なお、高度汎用力とは、社会でイノベーションを起こす力、イノベーション人材に求められる能力を指し、具体的には課題発見力・課題解決力・社会実践力の3項目から構成される。その内容は本プログラムでの博士人材に求められる力量などを参考に検討されており、本プログラムでの教育理念は全学としての教育の方向性に完全に合致している。

【今後に向けた大学院教育での課題と挑戦】在籍中の履修生に対するプログラムの教育は大学独自の経費により継続していくが、大学院での学位プログラムとしての発展については、H30年度以降の卓越大学院プログラム(仮称)の枠組みを念頭に置きながら次なる展開を構想していく。それに際しては、本プログラムでの取組で浮かび上がってきた下記の各課題に対する解決策を盛り込んでいく。

- ・本プログラムを含め本学の5つのプログラムのしくみとなっている副専攻方式は大学院等高度副プログラムや大学院副専攻プログラム等で培ってきた横断型教育を学位プログラムにまで拡大したものであり、スムーズな導入と運用では功を奏したものの、規模の拡大により履修生への負担が重くなる傾向が避けられず、一部には研究科の主専攻との両立が課題となるケースも垣間見られる。
- ・オールラウンド型としての汎用力や独自のIntegrationに関する内容にコースワークの前半を通じて関心を深めた履修生が所属研究科の主専攻の制約のもとでその方面の研究に進んでいきにくい。
- ・コースワークの履修やオールラウンド型の人材育成という意味では、学士課程を修了した直後の大学院生のみならず、社会での実務経験を経た大学院生を対象とすることにより高い効果が期待できるが、現状の大学院制度や社会のしくみのもとでは実現が困難である。

次なる大学院改革では、上記の論点も踏まえつつ、従来型の研究科でのコースワークや研究指導の在り方に対して新機軸の柔軟性を導入し、そのもとで社会の要請とも呼応する横断的な学位プログラムを多様な形態で導入していくことが必要である。このような考え方のもと、本プログラムを発展させ、共創知に係る大学院教育の中核的取組として文理統合型大学院プログラムの次なる展開を構想する。